

英書講読 ワークシート (1)

- (1) 著者はペルシア戦争をイデオロギー闘争だと言っているが、それはどういう意味か。(p.3)
- (2) アイスキュロスの『ペルシア人』において問題となるのは何なのか。(p.3)
- (3) アテナイ人が誰かの奴隷でなく臣民でもないと言ったとき、その答えが皇太后のアトッサにとってはどのような意味を持っていたのか。(p.3)
- (4) 著者が理性だけでは十分ではないと言っているのは何を指しているのか。(p.4)
- (5) ペルシア戦争を研究するときに忘れてはならない真実と著者が述べているのは何か。(p.4)
- (6) 権威主義的な人々がアケメネス帝国に魅せられる理由は何か。(p.4) 画一的な行政、神権的絶対主義、政治的敵対の欠如、穏やかな属州行政。
- (7) 現代ヨーロッパがアケメネス朝に負っているものは何もないと著者は述べているが、その理由は何か。(p.5)
- (8) ギリシア人が関係した主要な文明とは全く異なったものと著者が上げているものは何か。(p.5)
- (9) 一人のギリシア人のチャーチルに対して一ダースのギリシア人の何が居るのか。(p.5)
- (10) アケメネス帝国はどれくらいの期間で打ち立てられたのか。(p.6)
- (11) メディア王アステュアゲスに対して反旗を翻す為にキュロスとは誰と同盟を結んだのか。(p.6)

- (12) メディアを征服した後キューロスはどのような政策をメディア人に対してとったのか。(p.7)
- (13) デルフォイがクロイソスに与えた曖昧な予言とは何か。(p.7)
- (14) リュディアを征服した後、キューロスは何処を併合したのか。(pp.7・8)
- (15) 著者はキューロスをどのような征服者だと評価しているのか。(p.8)
- (16) ギリシア人がサトラペスと訳した属州総督クシャトラヴァンはどのような意味を持っているのか。(p.8)
- (17) 著者が歴史フィクションの分野でのすぐれたエッセーと呼んでいるクセノフォンの作品は何か。(p.9)
- (18) 現代の研究はヘロドトスなどが伝えているカンビュセスの暴虐非道は誰がでっち上げた話であったということを明らかにしているのか。(p.9)
- (19) ベヒストゥン碑文でダリウスはペルシア王僭称者を何者だと言っているのか。(p.10)
- (20) 共感を抱いていたとしてもヘロドトスのような学者はペルシア貴族の理想について事実上どうなのだと著者は述べているのか。(p.10)
- (21) バーンはペルシア貴族をどのように賞賛しているのか。(p.10)
- (22) 地上に神の正義を打ち立てる為に全ての者は努力しなければならないというゾロアスター教の教義が何にとってクラリオンの音となったと著者は言っているのか。(p.10)
- (23) スパルタの部隊を国境の外に送るのをためらわせたのは何か。(p.11)
- (24) スパルタの使節に対するキューロスの返答に見られるペルシアとギリシアとの

間の最も深い社会経済的裂け目とは何か。(p.11)

(25) キューロスがギリシア人に対して最も軽蔑したものは何か。(p.11)

(26) イオニア征服でペルシの官僚が学んだ教訓とは何か。(p.12)

(27) イオニア人商人と大王との蜜月が緊張を増し始めるようになるのは何を契機としてか。(p.12)

(28) 夷狄の脅威とは何か。(p.13)

(29) イラン人貴族はダリウスを何と評していたか。(p.13)